

IV 統計 豆 辞 典

「推計人口」と「住民基本台帳人口」の違い

統計の世界で最も基本的で重要なデータである人口。一言で人口と言いますが、代表的なものに5年に一度の国勢調査を基にした「推計人口」と住民基本台帳を基にした「住民基本台帳人口」の2種類があります。

「推計人口」とは、直近の国勢調査の人口を基に、その後の人口増減（出生・死亡・転入・転出）を積み上げて、その地域に居住していると推計される人口を毎月1日現在で算出したものです。（県統計情報室で毎月公表）

「住民基本台帳人口」とは、各市町にある住民基本台帳に記録されている住民の数であり、毎月末日現在で算出したものです。（県市町支援課で毎月公表）

両者の大きく異なる点は、「推計人口」は5年ごとに行われる国勢調査の人口を基にするため、実際の人口に近い数が算出されますが、「住民基本台帳人口」は、住民票を移さない限り増減はなく、実際の数と乖離する傾向にあることです。

※両人口の差異の主な要因

- ・学生が親元に住民票を置いたまま学校近辺で一人暮らし
- ・高齢者が自宅に住民票を置いたまま施設などに入所

従って、一般的には、都市部ほど推計人口の方が多くなり、農村部ほど住民基本台帳人口の方が多くなります。